



ぼらんていあ川口

社会福祉法人 川口市社会福祉協議会
かわぐちボランティアセンター
編集：ぼらんていあ川口編集員
〒332-0015
川口市川口1丁目1番1号キューポ・ラ本館棟M4階
かわぐち市民パートナーズステーション内
TEL: 048-227-7640 FAX: 048-227-7641
<http://www.kwgc-boransen.jp/>

元郷中学校 MOTO ボランティア

活動報告

7月9日（土）に、元郷中学校の生徒の有志によるボランティア活動として、「MOTOボランティア」を実施しました。
今回はその様子を紹介します！

- 目的：障害者スポーツを学び、ボランティア活動を通して社会貢献する
- テーマ：「MOTOボランティアから社会貢献へ」
- 内容：障害者スポーツボッチャ、ゴールボールを通して、地域共生社会づくりについて学び、地域に還元する

「障害者スポーツを学び、ボランティア活動を通して社会貢献する」ことを目的に参加者を募ったところ、当日はなんと88人の生徒が参加！

障害の有無や年齢、性別などに関係なく、対等な立場で楽しめるスポーツとして、「ボッチャ」や「ゴールボール」を体験することで、一人ひとりの違いに対する思いやりの心について学びました。



▲ボッチャ



▲ゴールボール

参加者の声

障害者スポーツを学ぶ
ことができてよかった。
この経験を活かしてい
きたいです！



次回、8月の元郷中学校 MOTOボランティアでは、今回障害者スポーツを学んだ生徒たちが、ボランティアとして小学生を対象に障害者スポーツを教えます！元郷中学校の今後の活動に注目しましょう！

小・中学校における不登校の児童生徒数は、全国的に増加しており、川口市でも一概ではありません。

「ぷらっとほーむ～かわぐち不登校ネットワーク～」では、行き渋りや不登校などのお子さんをもつご家庭の悩みを一緒に考え、支え合うための取り組みを行っています。活動について、代表のかたにお話をお聞きしました。

Q 具体的な活動について教えてください。

A 不登校といっても原因や背景は多種多様です。地域に合った支援や当事者や支援者を孤立させない仕組みづくりが必要と考え、令和3年4月から川口市内で活動を開始しました。毎月1回、学校に行きにくくなっている児童生徒の保護者を対象に「不登校を考える親の会」を開催しており、同じ悩みを持つ親同士が、気軽に情報交換やおしゃべりができる時間となっています。

Q 活動するうえで、どんなことに注意していますか？

A 「親の会」では、保護者のかたがたが安心して参加できるよう、二つのルールを設定しています。一つは、参加者個人が特定されるような話は他所でしないこと、もう一つは、参加者の意見や考え方を否定しないことです。

また、参加者それぞれの経験談は、あくまで参考にさせていただくことも注意点です。

Q 活動をしていて良かったと思うことはどんなことですか？

A 参加される保護者のかたがたの悩みはさまざまですが、迷う気持ちを話せる場所を見つけ、笑顔が戻っていく姿が見られたときが一番の喜びです。同じような経験をされているかたがたとの出会いにより孤立感が薄れ、安心感を持っていただけていると感じています。

Q 今後の活動についての考えをお聞かせください。

A 今後は子どもたちが安心して集まれるような居場所を作りたいと考えています。また、行き渋りや不登校は子ども自身や家庭の問題であるという固定観念が根強いのが現状です。社会的理解が正しく進んでいくよう講習会などもやっていきたいです。さまざまな関係機関と連携しながら、当事者と支援団体・地域をつなぐネットワークづくりに向けて取り組んでいきます。

「不登校を考える親の会」 見学レポート



▲へんな鯉のぼりハウス

6月の第4日曜日に「不登校を考える親の会」を見学させていただきました。会場の「へんな鯉のぼりハウス」は川口駅から徒歩10分程度の宅地にあり、玄関前の鯉のぼりが目印です。「親の会」の参加者は現在10人程度で、都合がつく日に参加されるとのことです。

この日は、小学校低学年の保護者2名とアドバイザー2名（宮村代表含む）が参加されました。

会合では、アドバイザーからの情報提供（学校選びに関する講習会への参加報告、関連書籍紹介など）をもとに意見交換。参加者のお子さんたちの場合、進学はまだ先のことですが、考えておく必要があるため、熱心に話し合いが進められました。

◆見学を終えて

ざくばらんに話し合いができるのは、お互いの状況を理解し、信頼関係があるからこそでしょう。また、皆さんのお話から登校・学習などの状況や保護者のかたがたが抱える悩みは千差万別で統計だけでは見えないことも多いと思いました。

子どもたちの行き渋りや不登校と向き合っていくために、まず親が気持ちにゆとりを持つことが大事です。そのために、身近な「親の会」が情報共有や話し合いの場として機能し、保護者のかたがたにとって有意義な時間となっていると感じました。

「不登校を考える親の会」への参加について

*開催場所：「へんな鯉のぼりハウス」

川口市金山町13-24

*開催日：第4日曜日午後

*問合せ先：ぷらっとほーむ～かわぐち不登校ネットワーク～

代表 宮村景子 plathome.kawaguchi@gmail.com



▲「親の会」の様子

『福祉教育推進員ボランティア養成講座を開催しました！』

令和4年6月15日(水)の午後開催しました。当日は、5名の参加があり、講話やアイマスク体験・車いす体験を皆さん熱心に取り組んでいました。うち3名のかたがたが福祉教育推進員として登録され、今後学校などで活動していく予定です。



▲アイマスク体験



▲車いす体験

ボランティア広場



おしらせ

清掃中 ～君も川ガキになろう～

昨年大好評だった「清掃中～君も川ガキになろう～」は今年度も秋に実施いたします！！
昨年参加した人も、参加できなかった人もみんなと一緒に川ガキを目指そう！

日 時 10月23日(日) 9:30～ (予定)
 場 所 荒川運動公園釣り堀池(通称)周辺
 協力団体 荒川夢クラブ、NPO法人クリーンエイド・フォーラム
 対象者 市内在住・在学の小学生から概ね25歳位までの青少年
 定 員 15名(先着順)
 申込方法 ボランティアセンターに電話にて申込(10月5日から受付予定)
 TEL:048-227-7640
 実施内容 荒川の水際・干潟のゴミ拾い・自然保護区の生態調査及び水質検査
 プラスチックゴミの海洋流出など、SDGsについて学べるよ！



短歌

芝中のさくら蕾も綻びて心待ちする花のトンネル

「芝中」がいい。近くに住まっているものにとつては、華に季節はなんといても近場のさくら。ましては満開となったらトンネルだ。状況を聞き合わせたりして心が騒ぐ。

芝地区 石井 清

食卓に向かう四人の真ん中に猫横たわり私も家族よ

こんな状態の猫もかわい。どうしても真ん中に陣取ってにっちもさっちもいかない。家族は「こまったものだ」といいながらもかわいのである。

神根地区 桑山 照子

うららかや菜の花空の果てまでもほほにすがしき風のあたりぬ

作者はひろい高原に咲く菜の花を見ている。春は暖かい風を送り爛漫の季節なのだ。気持ち浮き立ってどこでもいいから旅に出たがっているのだ。

芝地区 森田 富美子

おしらせ

★ボランティア見本市を開催します★

日 時 10月1日(土) 10:00～15:00
 場 所 キュポ・ラ広場(川口駅東口公共広場)
 主 催 ボランティア見本市実行委員会
 川口市・(福)川口市社会福祉協議会
 内 容 ボランティア団体、NPO等、日頃の活動を広く市民に知っていただくイベント。
 各団体のブース、小・中学生対象ボランティア体験コーナー、盲導犬体験など。

※状況によっては中止となることがあります。
ご了承ください。

編集後記

コロナ禍で地方へ移住する人が増えています。サラリーマンの勤務形態は多様化し、在宅勤務が当たり前のようになり、ライフスタイルも変わってきました。でも、子どもの就学は通学が基本で、何らかの理由で登校に支障があると通学できず、通学日数が足りないと不登校と呼ばれます。

そうした子どもの数は年々増えているようです。不登校について情報交換している市内のボランティアグループを訪ね、活動について見聞しました。

(ぼらんていあ川口編集員 H.N)

(選者) 短歌・ほおずきの会 金子 富美子